

平成26年度 愛・地球博成果継承発展助成事業について

26 地 研 ED 第 03251 号

平成 26 年 3 月 31 日

一般財団法人地球産業文化研究所

平成26年度の愛・地球博成果継承発展助成事業として、次の14件が採択されましたのでお知らせします。

なお、平成27年度愛・地球博成果継承発展助成事業の募集については、年内にも当財団のホームページ等においてお知らせする予定ですので、ご関心のある方はご留意下さい。

(単位:千円)

事業番号	団体名	区分	事業名称	事業内容	助成対象費用	決定助成限度額	採択理由
26-1-A	公益社団法人 sweet treat 311	A	海と山が繋がる新しい自然体験プログラムの開発事業	東日本大震災被災地の石巻市雄勝町において、26年度に開校予定のおがつ自然学校での新体験プログラムの開発等の実施。	13,656	8,000	東日本大震災被災地における子供達への環境教育活動として評価できること。
26-2-A	一般財団法人 鹿児島県環境技術協会	A	未来へ！幼児童向け感性を育むプログラム開発事業	乳幼児の自然体験を通じた環境教育事業「かごしま森のようちえん」を全国的に広めるべく、プログラムキット開発、人材育成研修活動、同キット貸出バンク整備活動等の実施。	9,374	7,499	子供達への環境教育、環境保全活動として評価できること。
26-3-A	一般財団法人 C. W. ニコル・アファンの森財団	A	3つの輪プロジェクト～農と自然と人との和を繋ぐ～	東京、埼玉、長野、宮城の様々な地域で学校、農業団体等と連携して実施している環境教育活動「ニコルの森の学校プロジェクト」のより充実した事業活動等の実施。	7,618	6,000	子供達への環境教育、環境保全活動として評価できること。
26-4-A	特定非営利活動法人 越後妻有里山協働機構	A	東北・都市・地域の子どもたちが共に取り組む棚田保全活動	越後妻有(えちごつまり)地域の棚田保全活動の一環として、東北被災地・都市・地元の子どもたちが棚田での田植えから草刈り、稲刈りまでの一連の農業体験に取り組む環境教育活動の実施。	6,459	5,040	地域発の環境教育、環境保全活動として評価できること。
26-5-A	公益財団法人 日本環境協会	A	こどもエコクラブ & ESDフォーラム	ESDユネスコ世界会議の日本での開催を契機に、国内外で環境活動に取り組む子供たちが集い、交流・学び合う「こどもエコクラブ&ESDフォーラムin愛知」事業、「こどもエコクラブ&ESDフォーラムin岡山」事業の実施。	9,557	7,500	ESDユネスコ世界会議開催を契機とする子供達への環境教育、国際交流活動として評価できること。
26-6-A	公益財団法人 せたがや文化財団	A	森の恵みと暮らし方-ブナ帯・食ごよみ-	秋田県、宮城県、更には岩手県の三陸沿岸の自治体と連携して、ブナの森を通じて日本の基層文化から現代に生きるブナ帯文化を探る展示、ワークショップ活動の実施。	9,184	5,000	環境教育、環境保全活動として評価できること。
26-7-A	特定非営利活動法人 関西国際交流団体協議会	A	NPOによるESD実践と若者人材育成イニシアティブ	これまでの実績とネットワークを発展させ、ESDユネスコ世界会議の開催にあわせてユネスコスクール、地域社会、各種NPOとの連携システムの構築、岡山ステーキホルダー会議にあわせた成果発表会の開催等の事業の実施。	10,000	8,000	ESDユネスコ世界会議開催を契機とする環境教育、環境保全活動として評価できること。

26-8-A	特定非営利活動法人 日本水フォーラム	A	世界を変えるトイレプロジェクト(仮称)	25年度の成果を踏まえ、トイレ衛生施設の途上国学校での設置、途上国でのトイレ普及活動の実施。	9,508	6,000	環境保全活動、国際交流活動として評価できること。
26-9-B	輪島商工会議所	B	2015年ミラノ国際博覧会への出展等の協力と準備事業	輪島塗や能登の里山里海からとれる農水産物を切り口にして、ミラノ博日本館への出展協力のための準備活動の実施。	10,850	8,000	ミラノ博を契機に取り組みようとする国際交流活動として評価できること。
26-10-B	特定非営利活動法人 日中産学官交流機構	B	グリーンアジア実現に向けた日中韓国際環境会議	日中韓3か国の民間研究協力による環境問題への取り組み等を促進する日中韓国際環境会議の本年秋の中国での開催。	9,340	7,472	環境保全、国際交流活動として評価できること。
26-11-B	小浜商工会議所	B	「ミラノ万博」国際交流子ども料理教室による環境教育	ミラノ博会場で行う幼児向けの料理教育プログラム「キッズ・キッチン」のための準備活動の実施。	9,367	7,493	ミラノ博を契機に取り組みようとする環境教育、国際交流活動として評価できること。
26-12-B	公益財団法人 オイスカ	B	「自然の叡智」集結のための国際環境教育モデル事業	ESDユネスコ世界会議の日本での開催を契機に、日本とアジアのこどもたちが共に参加し学び合う国際的な環境教育事業の国内外での実施、その成果のユネスコ世界会議などでの発信。	9,978	7,982	ESDユネスコ世界会議開催を契機とする子供達への環境教育、国際交流活動として評価できること。
26-13-B	特定非営利活動法人 グリーンバレー	B	「森と共に生きる暮らし方」探訪キャラバン2014	国内外の映像作家等の協力による全国規模での「森と共に生きる暮らし方」についての映像制作、同ウェブサイトの制作等の事業の実施。	7,500	6,000	地域発の環境教育活動、国際交流活動として評価できること。
26-14-C	特定非営利活動法人 TABLE FOR TWO International	C	自然との共生を体現するスローフードの調査・発表事業	ミラノ博日本館において自然との共生を軸にしたスローフード文化の日本での応用事例、新メニューの発信等を行うための準備活動の実施。	6,490	5,192	ミラノ博を契機に取り組みようとする国際交流、自然の叡智を深化させる活動として評価できること。

(注) 助成対象費用と決定助成限度額の百円以下は四捨五入により表示しています。

区分

A = 愛・地球博記念事業を発展促進させる事業部門

B = 国際交流を促進させる事業部門

C = 「自然の叡智」を深化させる事業部門